

New York Report

June 2020

CONTENTS

* Project 1: New York City under Lockdown

1. New York City under Lockdown

Project Overview

全米の主要都市が段階を経てロックダウンを解除していく中、ニューヨーク市は感染者の人数が基準を満たさないため、依然第一段階の解除（PHASE1）へ進むことも許されず、いまだに街中の小売店は扉を閉ざしている。非常事態宣言が発令された2か月半前、瞬時の対応を迫られた各リテールは即座に閉店し、ショーウィンドーにハリケーン前の準備のごとくベニア板を張り付け、長期にわたるクローズに備えた。歩く人もまばらでゴーストタウンと化したマンハッタン。張られたベニア板や無人の店の外壁には、落書きやグラフィティがあふれ、瞬く間に無法地帯に。「70年代の荒廃したNYが戻ってきた」と嘆く人も多かった。しかし、この落書きを有効活用する企業も現れた。化粧品小売販売の **Sephora** は、店舗ウィンドーに張った黒いベニア板の落書きから着想を得て、本職のアーティストに壁画を依頼することにした。「店を閉めていてもコミュニティに向けて発信することはできる」というのが、プロジェクトのコンセプト。

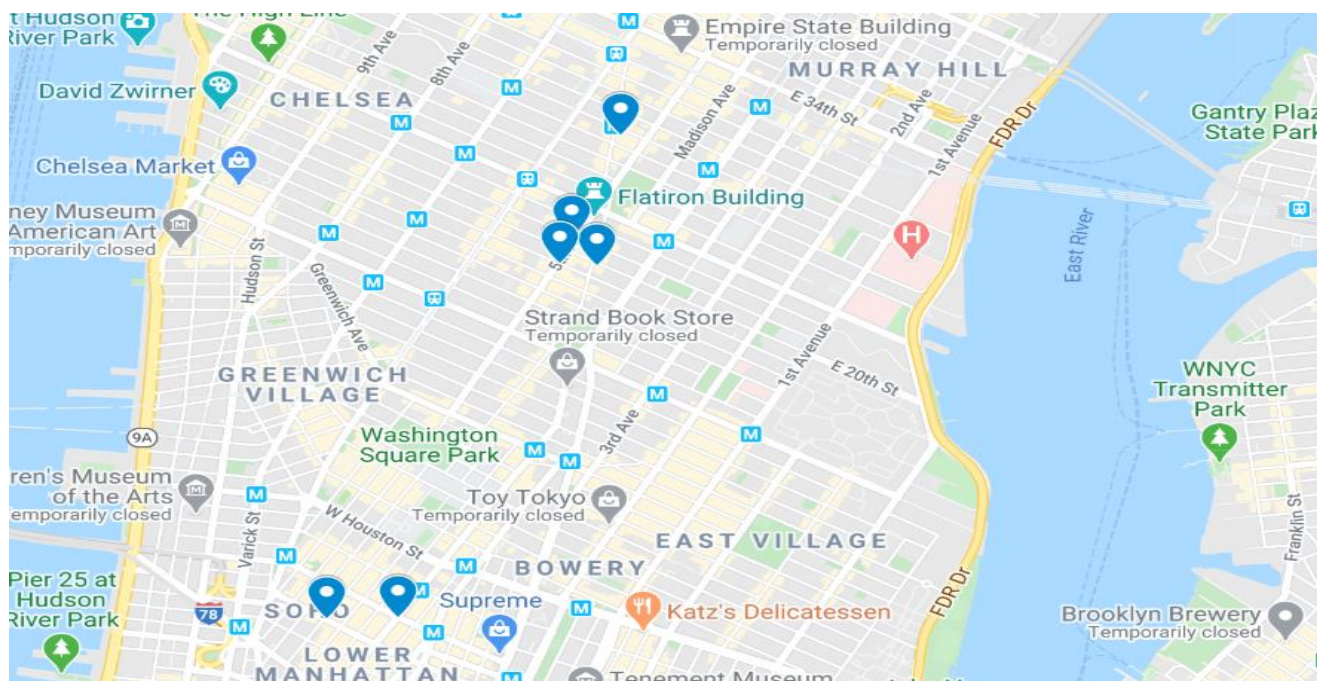
また、すでにストリート・グラフィティから引退していたアーティスト **Steve “ESPO” Powers** は、このパンデミック下における自分の気持ちや人々の想いを代弁したいと、再びスプレー缶を手に町に出た。（その活動の様子は、**Graffiti & Empty Street** と題した YOUTUBE チャンネルに日々アップされている

<https://www.youtube.com/watch?v=KmeDRssiA18>）主に SOHO エリアを中心に描かれた彼のグラフィティは、一部盗まれるなどの事件もあったが、現在は返却され一連のシリーズとして見る事ができる。本職のアーティストが参入してきたことで、マンハッタン中心部では心無い「落書き」が減り、コロナ渦中の市民の気持ちに寄り添うグラフィティやアートがロックダウンで疲弊しているニュー Yorker の心を癒したり、勇気づけたりしている。

Project Details

1. Manhattan
2. Street Graffiti

Location Map

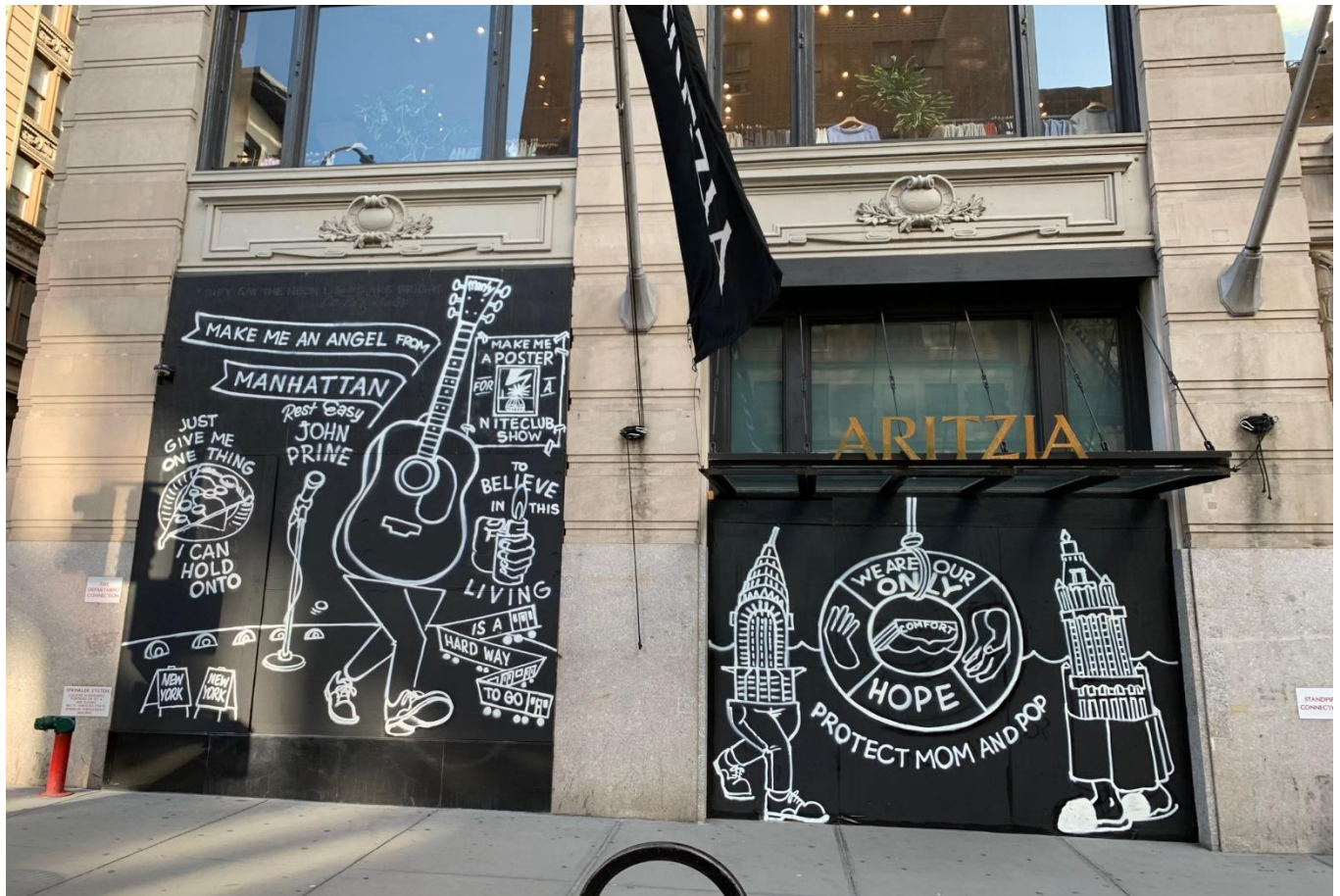




Club Monaco 旗艦店店には NY をベースに活動する Queen Andrea のグラフィティ <http://www.wall-therapy.com/queen-andrea/>



ニューヨーク愛に満ちたカラフルなグラフィティ



Steve ESPO Powers によるペイント。 <https://www.instagram.com/steveespowers/>



完成度の高いアートには、ストリートキッズもリスペクトを払い上書きをしない



SOHO の一画。複数のアーティストが呼応するように作品を重ねる



Theresa Rivera は Sephora をはじめ多くの壁画を手がけ精力的に活動している。



チョークアートはサイドウォークにも多く書かれている



Nomad Hotel by Theresa Rivera



ショーウィンドーには新型コロナ関連のディスプレイ